

渋沢栄一賞に大山氏

日本理化学工業会長 障害者雇用で貢献 県内初

福祉や教育などの社会事業で実績を挙げた全国の経営者を表彰する渋沢栄一賞（埼玉県主催）に、障害者雇用で貢献した日本理化学工業（川崎市高津区久地二丁目）の大山泰弘会長（76）が選ばれた。県内経営者の受賞は初めて。

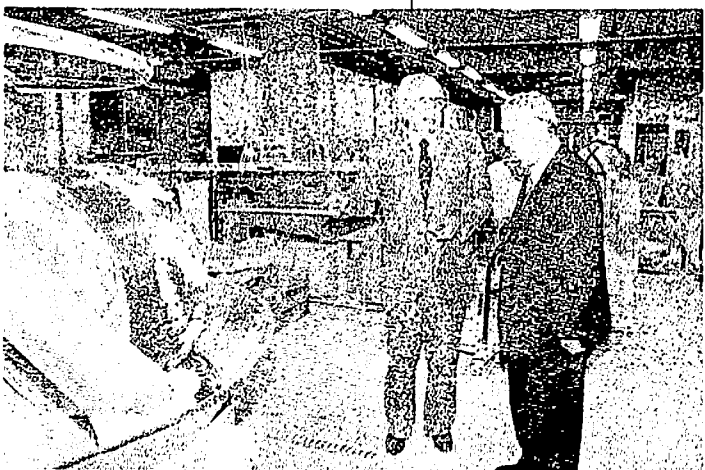
粉が飛び散らないチョコレートを製造し、国内シェアトップの30%を占める。川崎に本社と工場、北海道美唄市に工場を持ち、一九六〇年から障害者の雇用を始め、現在、七十四人の全従業員のうち五

十五人が知的障害者。障害者雇用率は75%に達する。「障害者の個々の能力に

合わせて作業環境を改善することで、誰もが喜んで働いてくれます」と話す大山会長。「知的障害者が僕をここまで導いてくれた。障害者への社会の理解を深めるために、これからも懸命に頑張りたい」と受賞を喜んでた。

同賞には、小児医療支援に三億五千万円を助成したスーパーマーケット業ヤオコー（埼玉県）の川野幸夫会長（66）、福祉・教育目的で地元へ二億円寄付したはごろもフーズ（静岡市）の

訪問者にチョコレートの製造工程を紹介する大山会長（左）
＝川崎市高津区の川崎工場



後藤磯吉顧問（89）の両氏も選ばれた。授賞式は二月十日、埼玉県知事公館で開かれる。

この賞は、日本近代資本主義の父と称される埼玉県出身の渋沢栄一にちなみ、七回目。全国から経営者十四人が候補として推薦があった。（三木 崇）